掟光寺だより

令和６年
６月号

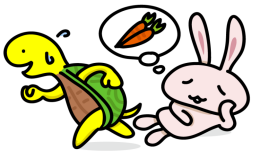
行事案内

●６月１１日（火）
「宗祖報恩講」
１３時３０分から

「出来る」ことの弊害

生きていく上で、何か才能があったり、器用であることは、誰しもが望むことではありますが、それがかえって成長を妨げていますことがあるようです。

それはどうしてかというと、才能や素質に恵まれたものは、それに満足し、才能のない者よりできると思い上がり、努力を怠るからです。童話の「ウサギとカメ」の話でも、足の早いウサギは途中で休んでしまって、カメに負けてしまうわけです。ないごとにも「努力」すること無しには成就しないわけで、ある意味では、愚直に一つのことをやり続けること、「好き」で居続けていられることが一番の才能かもしれません。



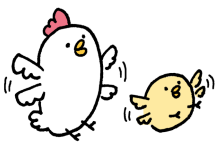
仏教のお経の中にもこのような話があります。

昔、愚かな金持ちがいました。ある日、知り合いの金持ちの建てた家を見に行ったところ、それは三階建てのりっぱな建物で、特に三階からの見晴らしは非常に素晴らしくきれいでした。愚かな金持ちはたちまちそれを大変気に入り、その時「自分の財産も彼に劣らないくらいある。これと同じくらい高くて景色のいい家を建てようじゃないか」と思い、家に帰ったら早速、大工を呼び「あそこの家のようなりっぱな家を作ってくれ」と頼みます。そこで大工は土地を測量し、地ならしをし、土台から作り始めました。愚かな金持ちは大工が下の方から組み立てて作る準備をしているのを見て怪訝そうに「大工さん、今何をしているのかね」と質問します。大工さんは「今は基礎工事をしているんです」と答えると、彼は「いや、私が頼んだのは、そんな下の部分ではなくて、三階を作ってほしいのだ。早く一番上の階を作ってくれ」とバカなことを言いだしました。すると大工さんは「そんなことはできません。まずは下から作り、それから二階をつくり、そうしてからじゃないと三階は作れません」と何度も説明しますが、愚かな金持ちはその理屈が分からず、聞き入れようとしませんでした・・・という話。

この愚かな金持ちのように才能に恵まれた人は、なにごとも始める前からもう二階まで出来ている、取り掛かればすぐだと思い、あとは三階を手に入れるだけだと思うが、結局うまくいかず諦めてしまうことがあります逆に才能がなく不器用な人ほど、こつこつと土台から造ることを忘れず、その結果りっぱな三階建ての家をつくることができるわけです。

もちろん努力すれば何でも報われるわけではないですが、努力しても報われず成就しないことがあると自覚しながらも、一つ一つのことを積み上げていくという精神が才能があるないに関わらず大切な生き方ではないでしょうか。

お釈迦さまの法句経というお経の中でも、

努め、励むのは不死の境地、
怠りなまけるのは死の境地
である。努め、励む人びと
は死ぬことがない

と書いてあり、日々努力、精進することの大切さを説いています。続けることは「変わり続ける」こと。常に成長しているという証というわけです。